［京の美景あれこれ］

気迫隆々

開館120年を迎える
京都国立博物館で開催される
特別展覧会「海北友松」。
躍動感にあふれる画風。ほとばしる気迫。
そして、力強さから詩情に満ちた世界へ。
独自の画境を求めた友松の世界に迫る。

重要文化財「雲龍図」（部分）　建仁寺蔵（1599年）

海北友松「雲龍図」

武家から絵師へ。偉才、海北友松がたどり着いたその境地とは。

雲間に姿を現した2頭の巨竜を、墨の濃淡をうまく使い分けて描いた「雲龍図」。まるで人面のような竜がこちらをにらみ付けている。竜は海北友松の得意とする画題で作例も多い。「雲龍図」は50面から成る「建仁寺方丈障壁画」の一部で、建仁寺の大方丈が台風で倒壊した際、襖絵から掛け軸に改装された。友松は戦国大名・浅井氏の家臣の子に生まれた。狩野派で学び、桃山時代から江戸時代初期に活躍。頭角を現したのは60歳前後で、現存する作品もそれ以降のものが多い。武家出身らしく、ほとばしる気迫を筆に乗せた、力強い画風が特徴だったが、晩年は詩情豊かで静謐な画風に変化していった。宮家や公家とも交流し、山水画や人物画、花鳥図も多く残している。

◉特別展覧会「海北友松」
京都国立博物館開館120周年を記念して開催される。「建仁寺方丈障壁画」の「竹林七賢図」（一部）のほか、米国の美術館が所蔵する「月下渓流図屏風」や「柏に猿図」、数少ない初期作品や初公開作品を含む国内外の70余点を展示。

撮影＝北嶋俊治

◉京都国立博物館開館120周年記念
特別展覧会「海北友松」
◎期間＝4月11日～5月21日
◎京都国立博物館「平成知新館」／京都市東山区茶屋町527／Tel.075-525-2473（テレホンサービス）／観覧料＝一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円、中学生以下無料／開館時間＝9:30～18:00（金、土曜は20:00まで）※受付は閉館の30分前まで／月曜休館（祝日の場合は翌日）／市バス停「博物館三十三間堂前」から徒歩すぐ
◎http://yusho2017.jp/

※会期中一部の作品は展示替えあり
（前期：4月11～30日／後期：5月2～21日）
※「雲龍図」は通期展示。
※現在、建仁寺では高精細複製作品を展示。